



信太の森ニュース

No. 48
2025年7月21日

文責 田丸八郎



信太山丘陵里山自然公園は、昨年 8 月に開園して間もなく一年になります。天候がよい日には散歩がてらに友達と、子ども連れで、夫婦仲良く散歩がてらに園内を散策する人が増えています。

この春、園路沿いには、信太山丘陵由来のスミレやタンポポ、ヘラバヒメジョオンが、アラカシ林を切り開き造成された草地には園外から持ち込まれた土由来のオッタチカタバミ、キツネアザミなど赤や黄色の花が咲き来園者の目を楽しませています。

その一方で4月頃から園内にイノシシが出没することもあり「イノシシ注意」の警告文を掲げて注意を呼びかけています。

先日里山自然公園来園者の話では、信太山の自衛隊がイノシシ10頭を捕獲したらしいという話をしていました。

増えすぎて演習場外まで出て来たのかどうか分かりませんが、来園者が警察に通報し、パトカーが出動して警戒に当たるという光景も。

親子連れで出現したこともあり、刺激を与えないよう見守るしかありません。

イノシシ以外にも要注意の生き物は他にもあります。信太山丘陵では、イノシシ以外にマムシ、スズメバチ、ダニ、ウルシ、ハゼなど注意しなければならぬ生き物です。その危険性を理解した上でそれらの生き物と旨く付き合っていくことが大切です。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

公園協議会の動きと活動

信太山丘陵里山自然公園西エリアが開園して間もなく一年になります。3月の事業計画ミーティングで報告されたところによると自然公園利用者は5,000名（目視）を超え、管理棟来館者は1,000名を超えたことが報告されました。

2月中旬からは、東エリア入口付近の南側にあったアラカシ林（計画では草原予定地）が切り開かれ、トイレ棟のための水道管の布設工事も行われ、東エリアの整備がやっとはじまりました。

公園協議会は、これまで市役所、学識経験者、地元町会代表、NPO法人で信太の森FANクラブ、いずみの国自然観クラブの構成で進められてきました。

そこへ一般市民でつくる「パーククラブ」が12月に発足し、今後はパーククラブも協議会の構成員として参加することになりました。

パーククラブの会長、事務局長には市役所公園緑地課から働きかけがあったと思われませんが、信太の森FANクラブ会員の稲井さんと山口さんが中心となり運営されることになりました。

◎外周柵用杭材としてアラカシ切り出し

東エリア入口の南側にアラカシ林がありました。東エリアの公園計画ではアラカシを撤去して草原にする計画になっています。

そのアラカシ林が2月中旬から業者により皆伐撤去されることを聞き、皆伐される前に惣ヶ池湿地の外周柵用の杭などに利用できる材を確保しようと谷口さん米田さんと3人で真直ぐなアラカシを選別して確保し、その運搬には廣石さんにも手伝って貰いました。

生のアラカシは重量があり、それを惣ヶ池湿地まで運ぶのは大変な作業でした。間伐材の一部は杭に、細いものは杭の補強材として利用することにしています。

◎東エリアの工事が始まりました。

里山自然公園の東エリアの工事が2月から始まりました。一つは東エリアのトイレ棟までの水道パイプの埋設工事と東エリア入口から過去に自衛隊が植林したアラカシ林の皆伐工事です。



切り開かれたアラカシ林

切開かれたこのアラカシ林はどんな草原にするのか。事業計画ミーティングの中で話し合いながら進められる予定ですが、外部からの土の持ち込みだけは極力避けなければなりません。

西エリアの一期工事でアラカシ林を伐採し、そこに外部から持ち込んだ土を入れたようですが、外来規制種のナルトサワギク（既に駆除）や繁殖力が強いセイバンモロコシ、外来規制種ではなくても繁殖力が強いツボミオオバコなどが繁殖し、その駆除に大変な労力を割かれている状況です。

◎雨が少なかったこの1年、生き物への影響は？

去年は雨が少ない一年でした。惣ヶ池湿地北側のスイレン池と湿地中央の池は干上がり南側の大きな池は中央に少し水を残すだけでした。

スイレン池は長年上流から流れてきた微細な土砂が沈殿して水深が浅くなったこともあり池の3分の1の泥土を除去したことは前号で紹介しましたが、期待する雨が降らないので、絶好の機会と池全体の泥土を掘り上げました。

野生動物監視カメラにキツネが



干上がった惣ヶ池湿地の水連池

その後掘上げた土を湿地周辺部に移動する際、その土砂の中にドジョウを見付けました。これを見て、掘上げた土砂の中にドジョウやメダカ、トンボのヤゴなどが多く混じっていたのではないかと心配になりました。

3月以降の雨で水位を取り戻したものの毎年4月頃から飛び回るハラビロトンボをまだ見る事ができません。トンボのヤゴ、ドジョウなど水生生物が生き残っているかどうか心配されます。

寡雨の影響は湿地斜面に生えていた食虫植物のコモウセンゴケやイシモチソウにも大きく影響しました、

ペットボトルで水を運び、水遣りをしましたが、5月に花を咲かせるイシモチソウは姿を見せず、コモウセンゴケも殆ど消えて数株が何とか生き残った状況です。この二種の食虫植物は根が浅く、乾燥に耐えられなかったのでしょうか。

この一年の教訓から(雨が少ない年)

- ① 池の土上げを行う場合、トンボのヤゴやドジョウなど水生生物を守るために2、3年掛けて部分的に土揚げをする。
- ② 池の水が干上がりそうな場合、干上がる前に水生生物(メダカなど)を捕獲し、池の水が確保されるまで水槽などで飼って絶滅を防ぐ。
- ③ コモウセンゴケなど食虫植物やシソクサなど希少な植物については、他から水を運び保護する。

一昨年の秋から大阪府環境農林水産総合研究所(環境総研)から協力依頼を受けて惣ヶ池湿地に野生動物監視カメラを設置しています。

惣ヶ池湿地に設置した監視カメラには、今年2月1日にキツネの姿が映っていました。キツネ出現については、「信太の森ニュース」44号で鳴き声が確認されたことをお知らせしましたが、映像確認は初めての事です。

その後、環境総研の幸田氏より監視カメラ交換のために5月22日に行きたいとの連絡を受け待っていたところNHKの取材班を連れてやって来ました。「環境総研」が大阪府下の野生動物を監視カメラで捉えた映像を展示しているのを取材に行ったNHKがカメラ交換現場を取材したいということで一緒にやって来たのでした。

NHKが取材した内容については、その日の夕刻「ホット関西 キツネが茨木市に出現」で惣ヶ池湿地のカメラ交換現場も含めた取材内容が放映されました。

惣ヶ池湿地に設置した監視カメラの一台が故障していただけない、今回の新機種は性能もよく、今後の映像に何が映るか楽しみです。

さて、信太山丘陵では、イノシシの出現について先に述べましたが、このところ冬場だけ出現すると思っていたノウサギがこの時期(7月)にも自然公園エリアに出現していることが確認されました。

今信太山丘陵で確認されている野生動物は、イノシシ、キツネ、タヌキ、アライグマ、ハクビシン、ウサギ、テン、イタチ、カヤネズミ、ジネズミ、ヒミズ(モクラの仲間)の11種になります。人に危害を加えかねないクマや植物を食べ尽くして環境破壊を拡大するシカなどがいないだけでもありがたいことです。

ミゾソバ駆除奮戦記

惣ヶ池湿地の秋を彩る植物の一つミゾソバは、陽当たりのいいところでは赤味が濃い花を着け、その美しさにカメラを向けてしまい

ます。

そのミゾサバが湿地全体に広がってしまいました。3年程前から湿地最上流域の空池（水が抜けて溜まらず）でミゾソバとミズユキノシタが繁殖しはじめたので、保全活動時に女性参加者に2年を掛けてそれらを駆除していただきました。

その次の年（昨年度）は池（格納庫横）に張り出した砂州状の湿地に入り込んだミゾソバとミズユキノシタを駆除。

そして今年度、その池の隣（下流）にある湿地に挑戦しました。

この湿地は、数年前までサンショウウオの卵のう調査を行っていた湿地で、数年前までは卵のうが見つかったのですが、今ではミゾソバとハンゲショウが繁殖して、サンショウウオが産卵できる環境が無くなってしまいました。

この湿地全体のミゾソバを駆除し、サンショウウオが産卵できる環境を復原する必要があります。

ミゾソバに覆われたその湿地は見ただけでもやる気を削がれそうでしたが、これこそが保全活動だと意を決して取り組むことにしました。

暑くならないうちにと惣ヶ池湿地の保全活動日に2回実施したのですが、それだけでは駆除できず、一人で挑戦することに。しかし、暑さにはかなわず午前中2時間7、8回実施して秋に回すことにしました。



ホトトギス 托卵雛が巣立ちました

今シーズンもホトトギスがやって来ました。和歌に「ほととぎす いまや都へいずみなるしのだの森の明け方の声」などと謳われてい

ますが、千年も昔からホトトギスは信太山丘陵にやってきているんですね。

今シーズンは惣ヶ池湿地周辺で頻繁に鳴き声が聴かれ、鳴きながら飛ぶ姿も確認されました。毎年5月中頃から6月中頃まで信太山丘陵で鳴いていますが、今年は7月16日に惣ヶ池湿地の近くで鳴くのを聴きました。

もしや托卵が成功して孵化したヒナではないかと過去に撮った雛鳥の写真を見ると7月15日に撮影していました。

ホトトギスにとって托卵は習性ですが、ウグイスにとっては迷惑千万な話です。

保全講座受講生受け入れ

7月13日（日）の惣ヶ池湿地保全活動日は、昨年から話があった一般財団法人環境事業協会が実施する環境保全講座受講生17名を受け入れて保全活動を行いました。

受講生は全員が大学の現役生で、午前中は里山自然公園管理棟内で「信太山丘陵の保全一湿地環境と植生」について講義と園内及び惣ヶ池湿地の自然観察を行い、午後からはFANクラブ会員の指導の下に惣ヶ池湿地の草刈と階段作りの実習を行いました。



保全活動の実習については、階段作り指導を森林ボランティアで活躍する谷口さん、今井さんをお願いし、草刈指導については、米田さんと筆者が行いました。

講座終了後に寄せられた感想には、普段体験できない階段造りができてよかった。貴重な体験ができた。環境保全への興味・関心が深まったなどの感想が寄せられました。